

## 第6学年 図画工作科学習指導案

屋久島町教育委員会 指導主事 下之菌 崇

### 1 題材名

あったらいいなプロジェクト（工作にあらわす）（日本文教出版 図画工作5・6年下）  
～未来の屋久島のまちをつくろう～

### 2 題材の目標

- 表したいイメージに合わせて、表すものの形や色、表現方法などを工夫することができるとともに自他の作品のよさや美しさについて、思いをもって楽しむとともに、表現の意図や特徴を捉えることができる。 （知識及び技能）
- これまでの学習を生かし、楽しさや幸せを表現する屋久島のイメージや、材料の特徴を基に、表す形や色、表現方法などを考えることができる。 （思考力・判断力・表現力等）
- これまでの学習を生かし、楽しさや幸せといった願いを込めた町づくりの計画に、自分なりの表現方法で粘り強く取り組もうとしている。 （学びに向かう力・人間性等）

### 3 題材について

#### （1）題材観

本題材は、自分たちが住む地域（屋久島）の未来像を思い描き、これまで図画工作科で学習した技法や様々な材料を用いて未来の町を表現する題材である。

本題材では、これまで総合的な学習の時間に、屋久島の人材や素材を活用して、屋久島の魅力や課題を調べたり、解決策を考えたりした活動と関連させることによって、持続可能な町づくりという視点を持ちながら、楽しさや幸せといった願いを込めた製作への意欲を高めることが期待できる。さらに、本題材は6年生最後の題材として位置づけており、総合的な学習の時間だけではなく、他教科での学びも生かしながら教科等横断的に知識を関連付け、発想を広げることが期待できる。また、計画書（アイデアスケッチ）の過程や中間鑑賞会、発表会を設定し、友達や地域の人々と交流することにより、多面的に未来の屋久島の町づくりについて考えを深めることができる題材である。

図画工作科は、一つの表現しか認められないのではなく、別の表現にも価値を見出すことできる教科であり、多面的・多角的に互いの個性を認めることができ、広がりをもたせることができる教科である。本題材においても、互いの多様な表現を認め合うことによって、お互いの作品を並べ、相互の関わりも考えながら大きな町へと発展させる活動へもつなげることができると思う。

#### （2）児童観

本学級の児童は、これまでの総合的な学習の時間において、自分たちが住んでいる屋久島の自然環境や伝統文化、産業等の分野において、その魅力や課題を見出し探究的に調べ、発信してきた。

話し合い活動等においても、互いの考えを交流しながら、複数人でアイデアを出し合い表現する活動に意欲的に取り組むことができる。さらに、これまでの図画工作科の学習から、様々な材料を用いながら試行錯誤し、自分の思いを表現することに意欲的である児童が多い。

しかし、自分の思いに表現が追い付かず、製作途中で活動が停滞してしまう児童もいるため、表現の途中で互いの作品を見る時間や、互いにアドバイスし合う時間を設定するなど、継続して製作に取り組む手立てが必要である。

### (3) 指導観

本題材の指導にあたっては、事前に総合的な学習の時間を活用し、「小学校卒業を前にこれまでの学習を振り返り、自分たちの地域を見つめなおそう。」というテーマを設定し、生活科の教科書や総合的な学習の時間のポートフォリオ等から、この6年間でどれだけ自分たちの地域について詳しくなったのか、あらためて屋久島の魅力や課題は何かについて考える時間を設定する。特に人々の生活には自然環境や伝統文化、産業などが大きく関わっており、世界自然遺産の島として持続可能な社会を目指していくことの必要感を高め、屋久島の魅力、課題を再度明確化させたい。

題材の導入では、事前にもたせている課題意識を基に、「自分たちの地域（屋久島）がこれからも住みよい町として持続していくためにわたしたちにどのような提案ができるだろうか」というめあてを設定し、これまでの経験や教科等横断的な視点から様々なアイデアを出し合い思いを膨らませる。特にSDG'sの17の目標やESDの視点「多様性」「相互性」「公平性」等を考えたり、地域や役場の人に提案しようというゴールを設定したりすることによって目的意識や必要感をもって製作に臨めるようにする。

展開の過程では、事前に集めていた各家庭から持ち寄った廃材などの材料や地域の素材を生かして製作を行う。イメージした町（建造物等）を製作するにあたり多様な表現を促すために、材料コーナーを設置したり、互いの材料を交換したりするなど製作中でも他者との交流を促し、多様な表現につなげるようにする。また、意図的に製作途中段階の「中間鑑賞会」を設定することにより、自分の製作意図を再度明確化し、他者との交流から新たな発想や表現方法が得られるように促す。

そして、完成した作品を基に、それぞれの作品のコンセプトを発表する場（学習発表会や町の文化祭、屋久島町役場の方を招いてのプレゼン）を設け、学習の成果を発信する機会とすることで学びの実感や、新たな課題提起を得たりする機会としたい。

### (4) ESDとの関連

#### ・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- I 多様性・・・自分たちの地域（屋久島）をよりよくするためのアイデアやアプローチの方法は多様であること。
- II 相互性・・・屋久島の発展は自然と密接な関係があり、農業・漁業・林業・観光業との関りを常に考える必要があること。
- III 有限性・・・屋久杉に代表されるように、限りある資源や屋久島という限定的な場所を生かす方法はないかを考える。
- IV 公平性・・・今だけ、自分たちだけがよければいいのではなく、屋久島全体の未来のためにみんなのアイデアを出し合う必要があること。
- V 連携性・・・「あったらいいな」を実現するためには、様々な分野の人たちと協力しなければならないこと。
- VI 責任性・・・これからの時代を生きる自分たちができることを考えるとともに、周囲へ積極的に発信していくこと。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ① 批判的に考える力 (Critical Thinking)  
利便性だけではなく環境に配慮したアイデアであるか。
- ② 未来像を予想して計画を立てる力  
「あったらいいな」と考える施設について計画を立てる。
- ③ 多面的・総合的に考える力 (Systems Thinking)  
屋久島の発展は特に自然と密接な関係があり、他教科等の学びを生かしながら考える。
- ④ コミュニケーションを行う力  
互いの考えを交流しながら製作を進めるとともに、完成した作品について発信する。
- ⑤ 他者と協力する態度  
友達や大人のアドバイスも取り入れながら (選択しながら)、協力して製作を行う。
- ⑥ つながりを尊重する態度  
自然や伝統、文化、人々とのつながりやを常に意識しながら活動する。
- ⑦ 進んで参加する態度  
自分たちが思い描くよりよい暮らし (未来) に向かって進んで取り組もうとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

- 世代内の公正  
未来の屋久島像を実現するにあたって、様々な立場や考えがあり、よりよい未来の屋久島像に向けて、それらを踏まえて多面的に追究することが大切である。
- 自然環境や生態系保全を重視する  
世界自然遺産登録されている土地という世界における屋久島の役割を再認識し、人間中心ではなく環境や生態系に配慮した開発 (生活の在り方) を目指す必要がある。

・達成が期待される SDG s

【11 住み続けられるまちづくりを】 【14 海の豊かさを守ろう】 【15 陸の豊かさを守ろう】

4 単元の評価規準

(7) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 表したいイメージに合わせて、表すものの形や色、表現方法などを工夫している。	① 楽しさや幸せを実現する町のイメージや、材料の特徴を基に、表す形や色、表現方法などを考えている。	① 楽しさや幸せといった願いを込めた町づくりに向けて、自分なりの表現方法で取り組もうとしている。
② 自他の作品のよさや美しさについて、思いをもって楽しむとともに、表現の意図や特徴を捉えている。	② 自然環境や伝統文化、産業等の観点や造形的な視点を踏まえてイメージを広げながら活動している。	② 自分の問題意識をもったり、表し方を検討したり、うまくいったこと・いかなかったことなどの学びを振り返ったりしている。
③ 小学校で学習した、知識や技法を用い、形や色を工夫している。		

## 5 題材の指導計画

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>(事前)</p> <p>この6年間でどれだけ自分たちの地域について詳しくなったのかや、あらためて屋久島の魅力や課題は何かについて考えておく。</p>	<p>○ 生活科の教科書や総合的な学習の時間のポートフォリオ等を基に、これまでの活動を振り返ることができるようにする。</p>	<p>イ①② (思判表) ウ① (主体的)</p>
<p>1 自分たちの地域(屋久島)のよいところや課題を基にイメージを広げ、自分が提案する町(施設)の計画書(アイデアスケッチ)を作成し交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界自然遺産を生かした観光業に関係のある施設があったほうがいいよ。</li> <li>・ 地域の特産品(名物)をアピールする建物があったらいいな。</li> </ul>	<p>○ これまでの経験や教科等横断的な視点から様々なアイデアを出し合い、思いを膨らませる。特にSDG'sの17の目標やESDの視点等を考えたり、地域や役場の人に提案しようというゴールを設定したりすることによって目的意識や必要感をもって製作に臨めるようにする。</p>	<p>ア① (知・技)  イ①② (思判表) ウ①② (主体的)</p>
<p>2 計画書(アイデアスケッチ)を基に、材料や用具、技法を選択しながら製作を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊ぶ場所(娯楽)が少ないから、単純に公園や遊園地などの施設を作ればいいと思っていたけれど、そこを使う人たちがどのような人たちでどのような願いをもっているかを考えて作らないといけな。</li> </ul> <p>3 中間鑑賞会を開き、途中段階での自分の思いを表現するための工夫(形、色、組み合わせ等)を発表したり、友達の作品へのアドバイスをしたりして、今後の製作に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光客が増える施設はいいけれど、マナーや自然を大切にするように訴える看板も作った方がいいかもね。</li> <li>・ ○○がうまくいかないのだけれどどうすればいいかな。</li> </ul>	<p>○ 事前に集めていた各家庭から持ち寄った廃材などの材料や地域の素材にも着目させる。</p> <p>○ 多様な表現を促すために、材料コーナーを設置したり、互いの材料を交換したりするなど製作でも他者との交流を促す。</p> <p>○ タブレットのカメラ機能を活用し、利用する人々の視点で鑑賞できるようにする。</p> <p>○ お互いの作品を鑑賞することにより違う視点でのアドバイスや技能面のアイデアがもらえるようにする。</p>	<p>ア①② ③ (知・技) イ①② (思判表) ウ①② (主体的)</p>
<p>4 作品を仕上げ、提案する作品のコンセプト等を紹介し合う。(発表会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地の名物は強みだから、屋久島のタンカンをすぐに輸送できるように道路を整備したり、加工品も作れるように果樹園の横に工場を作ったりしたほうがいいね。○○さんの作品の横に私の作品を並べたらもっとアイデアが伝わりやすいかもね。</li> </ul> <p>5 題材をとおして学んだことを振り返り、新たな展望をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回、思い描いた町づくりのためにこれから自分たちにできることはなんだろう。</li> </ul>	<p>○ 完成した互いの作品を鑑賞することでそれぞれの思いを共感したり、作品同士のつながりを考えたりすることで、よりよい未来の屋久島の町づくりに向けて、多面的に考えることができるようにする。</p> <p>○ 学習発表会や町の文化祭での展示発表や屋久島町役場の方を招いてのプレゼンを行う時間等を設定し、学びの実感が味わえるようにする。</p> <p>○ 中学校での総合的な学習の時間等の紹介をし、今後の学びへの期待感を高められるようにする。</p>	<p>ア②③ (知・技) ウ② (主体的)</p>